

(案)

資料4

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

半田市地域公共交通会議

平成28年1月28日設置

フィーダー系統 平成30年3月30日 半田市地域公共交通網形成計画策定

1.協議会が目指す地域公共交通の姿 (Plan)

■地域特性と背景

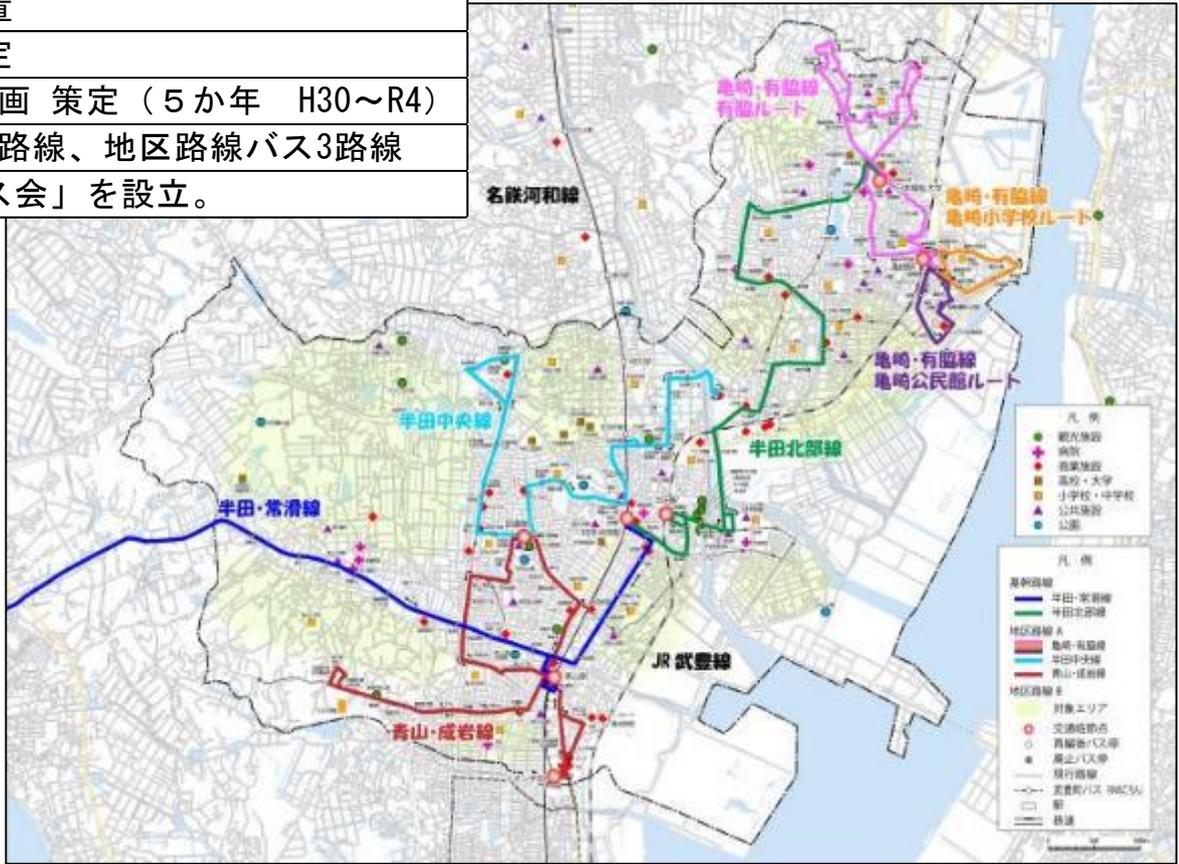
- ・人口は約12.0万人（R1年）、半田市人口ビジョンでは減少する見込み。
- ・鉄道2本（JR武豊線・名鉄河和線）が市中心部を南北に縦断しており、高速道路が南北と西方面に走っており、半島という地理的条件下においても市域間移動の環境は比較的恵まれている。
- ・バス交通は民間バス自主路線に頼る状況が続いていたが、利用低下を背景に平成30年10月に大幅な再編を行い、知多乗合(株)6路線を2路線に統廃合し基幹路線とし、地域路線として市運営（運行委託）の3路線（フィーダー）を新規に導入し、新たなバス環境の構築に取り組んでいる。

年月	内容
平成28年 1月	半田市地域公共交通会議 設置
平成28年 5月	半田市地域公共交通条例 制定
平成30年 3月	半田市地域公共交通網形成計画 策定（5か年 H30～R4）
平成30年10月	公共交通再編 基幹路線バス2路線、地区路線バス3路線
令和元年	市内4地区で住民主導の「バス会」を設立。

■方針・目標・期間

H30～R4 5か年

全体目標	「おでかけ環境が充実した 住み続けた いまち 半田」の実現
基本方針 1	半田市の一体性の強化及び観光施設・イベントを回遊できる公共交通ネットワークの再編
基本方針 2	半田メインストリートにおける公共交通サービスの充実
基本方針 3	各生活圏のおでかけニーズに対応した公共交通サービスの確保
基本方針 4	関係者が連携・協働し公共交通を支え育む仕組みの構築



■ 利便性の向上に関すること

- ・再編と合わせた片道運賃上限制度の導入【平成30年10月～】
- ・再編と合わせた官民共通乗車券の導入（1日乗り放題券、共通定期）【平成30年10月～】
- ・バスロケーションシステム（乗降カウントシステム）の導入【実施中】



地区路線バスごんくる



1日乗車券



バスロケーションシステム

■ 路線拡充・改善に関すること

- ・公共交通空白地域の解消等に向けた住民主導のバス会の設立・運営支援（4地区）

【令和元年5月】

岩滑小学校区お出かけバスを考える会
アンケート集計結果

お出かけ先別乗客ランキング

全ジャンルから「週に1、2回程度お出かける」あるいは「ほぼ毎日お出かける」と回答のあったお出かけ先上位15番までを示したものの、なお、上位15番が回答全体の83.3%を占める。

お出かけ先	週に1、2回 ほぼ毎日乗客	割合
1 エタポ	505	26.2%
2 アビタ	253	11.3%
3 パロー	159	7.1%
4 アオキスパー	152	6.8%
5 半田口駅	114	5.1%
6 その他買い物	92	4.1%
7 その他食事	75	3.4%
8 コメダ	74	3.3%
9 ○○保育・幼稚園	71	3.2%
10 公民館・区民館	69	3.1%
11 住吉町駅	59	2.6%
12 ○○金融機関	45	2.0%
13 ○○整形外科	38	1.7%
14 その他	38	1.7%
15 知多半田駅	35	1.8%

岩滑バス会住民アンケート



亀崎バス会試走会



岩滑バス会 新規バス企画発表会

■利用促進・周知策

- ・ごんくるクラフト作成配布 (HP掲載) 【平成31年2月】
- ・県連携による「エコたびin知多半島」作成配布 【平成31年3月】
- ・武豊線沿線4市町観光協会連携による「武豊線今昔物語」作成配布 【令和元年7月】
- ・市報を活用した市民リポーターによるバス乗車事例の掲載 【令和元年7月】
- ・商工会議所青年部主催によるバスを利用したイベントの開催 【令和元年8月】
- ・観光協会、名鉄と連携した観光企画切符の造成 【令和元年9月～12月】
- ・市内中学校授業でのバス利用周知 【令和元年9月～10月】
- ・高齢者運転免許自主返納促進事業の開始 【令和元年10月～】
- ・半田市プレミアム付き商品券取扱店ガイドブックへの路線図掲載 【令和元年10月～】
- ・ごんくるすごろく作成配布 (HP掲載) 【作成中】



市民リポーター市報掲載



武豊線今昔物語



名鉄キャンペーン 観光企画切符の造成



ごんくるクラフト

■市内のバス利用者人数

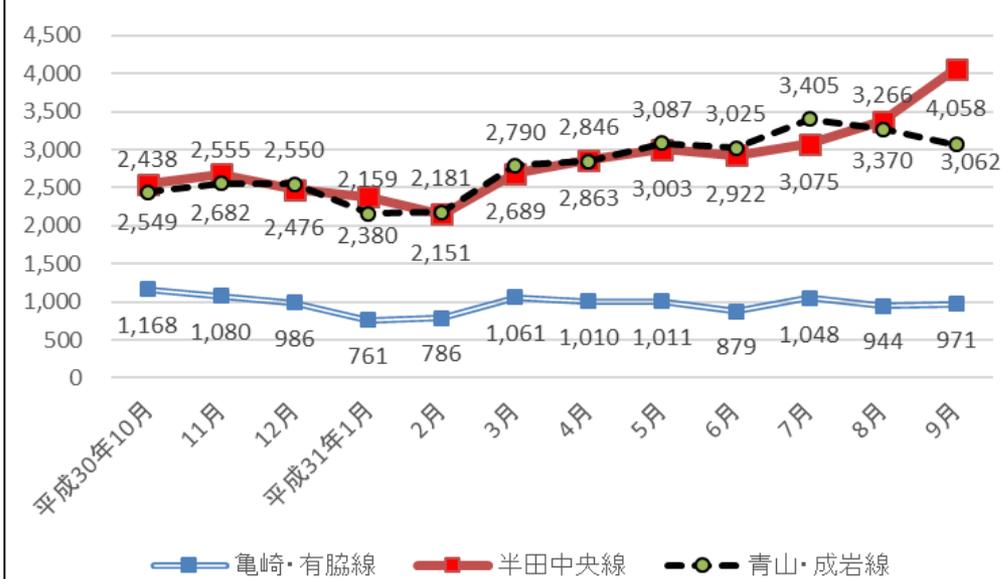
(単位：人/日)

	路線名	運行	始値	目標値	参考	実績		達成率
			H28実績値	R4	便数/日	R1		
基幹路線	半田北部線	知多乗合(株)	1,100	2,700	42	556		47.8%
	半田・常滑線				45	517		
地区路線	亀崎・有脇線	市から委託 ※知多乗合(株)			10	32		
	半田中央線				13	94		
	青山・成岩線				14	91		

※半田北部線、半田・常滑線は計3回のOD調査の平均値を採用。便数は平日・休日の平均。

※亀崎・有脇線、半田中央線、青山・成岩線はH30.10～R1.9間の全日の平均値

地区路線バス月別利用者数



【結果・考察】

- ・平成30年10月からの路線再編によって、全体としては利用増となった。
- ・半田・常滑線のセントレア行き増便や北部線との朝夕時間帯の相互直通運行が奏功したと考察。
- ・新規となる市委託による地区路線バスは開始以降概ね堅調に推移しているが、亀崎・有脇線のみ低調であり改善を要する。

【対応方針】

- ・堅調路線は利用促進
- ・低調路線は路線見直し
- ・交通空白地域解消に向けた路線拡充

3.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

■観光企画切符の販売数

(単位：枚/年)

始値	目標値	実績	達成率
H28	R4	R1	
0	800	969	121%

【結果】

・観光スポットを巡る半田中央線は、シーズンとなる9月～10月は、昨年同月比においても同年他路線と比較しても利用者人数が上回る結果となった。

2018.10～	利用者人数(整理券枚数)				差
月	ごんくるB線合計	亀崎・有脇線 K線	半田中央線 H線	青山・成岩線 A線	H線-A線
2018年10月	6,155	1,168	2,549	2,438	111
2018年11月	6,317	1,080	2,682	2,555	127
2018年12月	6,012	986	2,476	2,550	-74
2019年1月	5,300	761	2,380	2,159	221
2019年2月	5,118	786	2,151	2,181	-30
2019年3月	6,540	1,061	2,689	2,790	-101
2019年4月	6,719	1,010	2,863	2,846	17
2019年5月	7,101	1,011	3,003	3,087	-84
2019年6月	6,826	879	2,922	3,025	-103
2019年7月	7,528	1,048	3,075	3,405	-330
2019年8月	7,580	944	3,370	3,266	104
2019年9月	8,091	971	4,058	3,062	996
計	79,287	11,705	34,218	33,364	854

【考察】

・鉄道+ランチの切符にバスを付加した形になっており、公共交通を使って移動する前提の方をターゲットにすることには意味があった。
 ・混雑、遅延が発生しやすく運行状況をリアルタイムに知る手段のニーズが高まった。

【対応方針】

・観光シーズンの企画切符の連携は継続。
 ・バスロケーションシステムの導入及びGTFS化の実現。

2019.10～	利用者人数(整理券枚数)				差
月	ごんくるB線合計	亀崎・有脇線 K線	半田中央線 H線	青山・成岩線 A線	H線-A線
2019年10月	8,310	934	3,956	3,420	536
2019年11月	7,934	1,041	3,403	3,490	-87

課題	対応方針
<p>【空白地域解消】大幅再編の統廃合のなかで公共交通空白地域となったエリアの足の確保。</p>	<p>住民主導による地区バス会の設立とバス会策定の運行案に基づいた新規路線の導入。【R2：2路線増、R3：2路線増】</p>
<p>【知名度向上】再編路線の市民、旅行者への知名度向上や移動ニーズの高まる観光シーズンを捉えた利用の促進。</p>	<p>教育、市民活動組織、経済界、観光業界など多様な分野との連携の継続・強化を図り、バスの露出頻度を増やす。観光企画切符については継続する。 【R2以降も継続実施】</p>
<p>【路線改善】再編路線のうち、低調となった亀崎・有脇線の見直し。</p>	<p>地元住民主導のバス会とともに見直し案を策定し、路線の見直しを行う。 【R2.4月】</p>
<p>【待合・情報発信環境向上】バス待ち時の待合および情報発信環境の向上。また、情報発信においては、乗入れのある武豊町、常滑市との広域連携を強化する。</p>	<p>主要結節バス停にシェルターやバスレーンを整備する。また、バスロケーションシステムの導入やGTFS化により、リアルタイムの運行状況をお知らせする環境を整えるとともにGTFS化を果たしている武豊町とは相互情報発信に取り組む。【R2～R3】</p>

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

半田市地域公共交通会議

平成28年1月28日設置

フィーダー系統 平成30年3月30日 半田市地域公共交通網形成計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>平成30年度に路線再編を行い、コミュニティバス運行のスタートにおいて公共交通マップを作成し、認知のため全世帯や公共施設に広く配布していることを評価します。</p> <p>今後は、1日乗車券の啓発等、利用促進にむけたPR事業を着実に実施していくことを期待します。</p>	<p>教育、市民活動組織、経済界、観光業界など多様な主体が実施する催事やプロモーション活動と連携することで、路線バスの幅広い情報発信に努めた。</p>	<p>各分野との連携による情報発信は継続するとともに、可能な取り組みにおいては各情報発信の効果測定を行うことで、今後の発信活動の効果向上につなげる。</p>

2.アピールポイント

■ 地区バス会の設立・運営支援

路線改善や交通空白地域解消に向けて該当地区での地区バス会設立に向けた支援や、立ち上げ後の運行案策定に向けた勉強会やアンケート調査を協働した。



豊清小学校区お出かけバスを考える会
アンケート集計結果

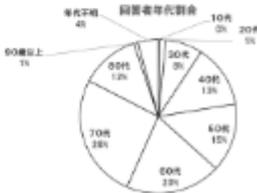
回答者属性 ※ 複数回答可

豊清区	半田1区	小計
1,312	233	1,545

地区	配付数	回収数	回収率
豊清区	2,020	1,312	65.0%
半田1区	313	233	74.1%
合計	2,333	1,545	66.2%

性別	豊清区			半田1区			小計		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
30代	6	0	6	1	1	2			
40代	23	4	27	15	1	16			
50代	57	14	71	79	12	91			
60代	67	8	75	118	14	132			
70代	95	32	127	134	11	145			
80代	136	35	171	145	31	176			
90歳以上	72	16	88	191	34	225			
年代不明	6	0	6	85	12	97			
男性小計	4	0	4	4	1	5			
	466	109	575	7	0	7			
				779	117	896			

性別不明	豊清区	半田1区	小計
60代	1	0	1
70代	3	0	3
80代	2	0	2
90歳以上	7	0	7
年代不明	4	0	4
合計	2	0	2
	48	7	55
	67	7	74



■ 観光企画切符

観光部門（観光協会）と名古屋鉄道とのタイアップキャンペーンに参画し、観光スポット沿線を走るバス路線の乗り放題サービスを付加し販売。

■ 高齢者運転免許自主返納促進事業

65歳以上の運転免許自主返納を促進するため、返納者へタクシー券あるいはバス利用券を交付する取組を開始（令和元年10月）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月24日

協議会名： 半田市地域公共交通会議

評価対象事業名： 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
半田市地区路線バスごんくる(知多乗合株式会社)	3路線【1路線1台、計3台の車両減価償却費等補助】	※1年目となり、今回が初の評価となります。	A 平成30年10月から計画通り運行開始	B 【目標】令和4年度に市内全路線バスの2,700人/日(当該3路線按分値は740人/日) 【結果】217人/日、29.3% 【理由】実績が無いなかでの設定であったため、全体目標が高すぎた可能性があること。次年度以降路線を増やす予定があるが、その分を現時点では見込んでいないこと。当該3路線のうち1路線が低調であったこと。	・利便性向上のためバスロケーションシステムを導入する(令和元年度)。 ・低調であった1路線の見直しを令和2年度に実施する。 ・令和2年度以降、地区路線バスごんくる以外の路線を新規導入する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月24日

協議会名:	半田市地域公共交通会議
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<ul style="list-style-type: none">・長年の間、民間自主路線に市が赤字補てんする形でバス交通を維持してきましたが、路線の大きな見直しが行なわれ利用者数は減少し続け、平成28年3月には、運行事業者の意向により、2路線の廃止と1路線の短縮が実施されました。そこで、本市では平成30年3月に「おでかけ環境が充実した住みやすいまち半田」を交通将来像に掲げ、半田市地域公共交通網形成計画を策定するとともに、平成30年10月から、計画に基づき、市内バス路線の大幅な再編を実施しました。・再編により民間事業者の運営する基幹路線2路線と市の運営する地区路線3路線(フィーダー系統)で運行する形となり、基幹路線が市中心部と各地域を結ぶ背骨となり地区路線が地域内を細かく巡るという役割分担を果たすことで、きめ細かい移動ニーズへの対応を目指しました。運行形態のほか、運賃の見直しや上限設定(乗り継ぎ割引)、共通乗車券、民間路線の混雑時間帯の直通化など、官民一体で利用しやすい仕組みづくりに取組みバス環境を向上させました。・再編後、利用者数は続伸しており、今後も高齢者の増加や運転免許返納など移動需要は高まっていくため、改善を重ねながらより良い公共交通環境の形成を進めたいとするものです。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

令和2年1月24日

協議会名:半田市地域公共交通会議

①事業の結果概要	④事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割等を記載。】
公共交通マップの作成	A 計画通り事業は適切に実施された。	公共交通マップ55,000部を作成し、市内全世帯への配布及び公共施設等に配架した。 マップは、市内の全バス路線の時刻表や路線図に加え、再編により新たに設けられた各種制度の解説や、再編後の路線改善やバスロケーションシステムの情報を反映した。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月24日

協議会名:	半田市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通調査事業(計画推進事業)国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<ul style="list-style-type: none">・長年の間、民間自主路線に市が赤字補てんする形でバス交通を維持してきましたが、路線の大きな見直しが行なわれぬまま利用者は減少し続け、平成28年3月には、運行事業者の意向により、2路線の廃止と1路線の短縮が実施されました。そこで、本市では平成30年3月に「おでかけ環境が充実した住みやすいまち半田」を交通将来像に掲げ、半田市地域公共交通網形成計画を策定するとともに、平成30年10月から、計画に基づき、市内バス路線の大幅な再編を実施しました。・再編により民間事業者の運営する基幹路線2路線と市の運営する地区路線3路線(フィーダー系統)で運行する形となり、基幹路線が市中心部と各地域を結ぶ背骨となり地区路線が地域内を細かく巡るという役割分担を果たすことで、きめ細かい移動ニーズへの対応を目指しました。運行形態のほか、運賃の見直しや上限設定(乗り継ぎ割引)、共通乗車券、民間路線の混雑時間帯の直通化など、官民一体で利用しやすい仕組みづくりに取組みバス環境を向上させました。・再編後、利用者数は続伸しており、今後も高齢者の増加や運転免許返納など移動需要は高まっていくため、改善を重ねながらより良い公共交通環境の形成を進めたいとするものです。